



## 渡り鳥のなぞ

... 季節になるとやってくるもの ...

子ツバメが見ている海の向こうに冬の越冬地があります。→



高丘コミセン中央集会所駐車場に、今年2回目のツバメがやってきました。渡りをする“ツバメ”は季節を外すことはありませんね。今年もみなさんの家の近所で親ツバメがせっせと巣作りし、小さな子どもたちを育てている姿を見かけられたことでしょう。

先日、自宅のベランダ前にある電線にツバメが留まっていた。隣家の軒先で巣を作るツバメの家族が飛び練習をしているようです。親鳥と比べると子ツバメたちの身体は小さく、まだまだ渡りには耐えられそうもありません。ピーピーという鳴き声は身体に似合わず大きな音で、親鳥がせっせと餌を運んできています。その後、しばらくするとそのあたりをくるくると飛び回っていました。

このツバメ、渡り鳥で言うと「夏鳥」。日本での産卵期は4～7月頃で、子育て後の越冬地は台湾、フィリピン、ボルネオ島北部、マレー半島、ジャワ島などということです。一方、シベリアやオホーツク海沿岸で

繁殖し、冬季は温暖な日本などへの渡りを行い越冬する“白鳥”などは「冬鳥」と言われます。鳥からすれば、温くなるから北上し、寒くなるから南下するのですが、日本を起点にしてみると、冬にやってくる冬鳥、夏にやってくる夏鳥となるわけです。ポケットもなく、地図もGPSもないのにすごい！

台風とツバメ、季節の便りを届けてくれますが、随分と違いがあります。しかし、昔々から日本列島の豊富な自然環境が生き物たちを呼び寄せ、陸続きの頃を経て、人も海を越えて集まってきたのでしょう。

巣立ちの日まではあとわずか。



# 渡

ト、わたり、わたる  
シ(かわ)と、音を表す度  
(ト：はじからはじまで歩く意)からなり、川をわたる意味を表す。



## コミセン情報紙のタイトル コミナビ高丘 とします！

コミセンでのまなびをナビゲートします。

たくさんのご応募、ありがとうございました。高丘コミセンへのあふれる思いが感じられました。

AKA・TAKO	TAKAOKAをばらばらにしてAKA・TAKO 明石のあかに名産のたこ。たのしく考えておもしろく感じる。
めぐる	季刊誌なので季節をめぐるとの意味と、回覧板や掲示板を通して人々の間を情報がめぐっていくという意味をこめました。
コミット	コミットの意味が結果を約束する、積極的に関わるということでコミセンとの語呂合わせにしました。
たかなび	高丘のまなびをナビゲートする。
たかなび	高丘の情報(ナビ)で。シンプルでわかりやすいものがありました。
ようこそ！	「ようこそ」は挨拶でもあり、温かく迎え入れる意味を込めた言葉だと思います。情報紙の扉を開いて頂き、歓迎と感謝を込め、一歩前へ！そんなことを思いながら考案しました。